**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」  ・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選  会員及び一般部門　エッセイ募集：  2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ  原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。  ※パワーポイント使用可。  【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。  ※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開  入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。  青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：心が通い合うとき**

**お名前：小松奈保子**

(下記より本文をご記入ください)

　私は今年で26歳になります。これまでの人生で、色々な国際交流の経験があったので、その時のことについて振り返りながら、心の壁をどうやって超えていったのかについて考えてみようと思います。人生を大きく振り返ると、小学生の時に、韓国の婦人の方から韓国語を教えてもらうようになりました。一生懸命頑張っていた記憶があります。また、高校生の時は韓国ドラマにハマっていて学校から帰るとその時間を楽しみにしていました。韓国が好きだったので、大学は朝鮮語科に通って基礎の文法から韓国語を学びました。とっても楽しい時間でした。そして今は、その経験を活かして小学生に月１回韓国語を教える先生をすることになり、取り組んでいます。そのように過ごした人生の中で、色んな国の方、特に韓国人の方と交流することが多かったので、ここからは心に残った思い出を紹介しようと思います。

　まず、大学で知り合った韓国人のお姉さんとの思い出です。彼女はとっても日本語が上手で、日本のアニメなどが好きな方でした。優しくて頼れるお姉さんという感じで、仲良くなって一緒に吉祥寺を巡ったりしました。塩パンを紹介したらとっても美味しいと感動していたり、ゴディバのチョコドリンクを買ってくれてお礼にたこ焼きを買ってあげたりと本当に仲良く過ごしました。その中でも印象的だったことは、私がビーズでうさぎを作ってストラップにしてプレゼントしたところ、とっても感動してくれてありがとうと喜んでくれたことと、今度は逆にお姉さんが沖縄に旅行に行ったときは紅芋タルトなどのお菓子を詰め合わせてくれたり、韓国に戻ったときにアロエクリームやホットクの手作りセットをくれたりしたことです。私もお返しに北海道の白い恋人をあげたりしました。あとは韓国の延世大学の語学院に留学に３週間行った時に、わざわざ遠いところから電車に乗って会いに来てくれて私が行きたいと行っていた韓屋マウルに行ってくれたり、食べたかった冷麺とマンドゥのお店に連れて行ってくれました。お姉さんとは何でも話せて日韓関係についてどう思うかなどの話もできました。嫌がられるかなと思っていましたが、こういう話をできる人がいないから話せてよかったと言ってくれてとても嬉しかったです。このお姉さんとの出会いから思ったのは、お互いを大切に思う心は通じるということでした。出会いに感謝して楽しく過ごせてとっても大切な思い出が作れました。お互いを思い合える関係を築くには、お互いの良いところを見たり、理解し合えることが大事だと思いました。愛をプレゼントや行動で表現して相手が喜んでくれると嬉しくなって、そうやってそうやって愛を循環させあえると素敵な関係が国を超えて築けるのだと学べました。

　次は韓国留学したときの思い出です。同じ部屋を使ったオンニたちは色々な国籍でした。両親が韓国人で日本に住んでいる韓国語がペラペラのお姉さんと、台湾から来た日本語を大学で学んでいたお姉さんと、中国で社長をしているお姉さんがいました。初めて会った時から優しくしてくれて３週間でとても仲良くなりました。台湾のお姉さんと民俗村に行ったり、日本のお姉さんも加わってトゥンカルビを食べに行ったり、みんなで宅配のチキンを食べたりしました。また、韓国にお嫁に行った私のお母さんの友達の方のお家に列車に乗って行ってお正月を韓国の家で過ごさせてもらいました。その方は韓国の方のように化粧品やお土産や食べ物などをいっぱい買ってくれてビュッフェにも連れて行ってくれていっぱい愛してくれました。その方の高校生の娘さんとも仲良くなって一緒に映画を見たり、お正月のご馳走の準備をしたりしました。また、お世話になった語学院の先生方にメッセージボードをプレゼントしたのですがとっても喜んでくださいました。あとは、留学の少し前から仲良くなった韓国人と日本人のハーフのお姉さんがいたのですが、カフェに連れて行ってくれたり留学の相談に乗ってくれたりして、その方の旦那さんが韓国にいらっしゃって、紹介してくれて韓国に最初に行ったときからお迎えに来てくれて泊まる場所まで連れて行ってくれたり、ラーメン、チキン、トッポキをご馳走してくれたり、中学から留学していて韓国語がペラペラでその時にお世話していた私と同年代の女の子たちに紹介してくれたりしてその子達とも仲良くなりました。韓国に暮らしていたり韓国人の血を引く方たちは主体的にお世話をしてくれたり可愛がってくれたりと与える文化があるのだなあと感じました。私は与えてもらうとお金を使わせてしまったりと嫌われてしまうかなと思って上手く受け取れないタイプだったのですが、相手は好意で与えたくて喜んでほしくてしてくださっているのでありがたく受け取っていくことも心を通わせるには必要なことなのだと思いました。そして感謝しながら自分ができることで喜んでもらおうとすることも大事だと思いました。

　そして私の人生の友だちになってくれた女の子も韓国人のお父さんと日本人のお母さんのハーフでした。その子とは北海道から東京に上京した時に同じ寮で暮らすことになりました。最初はお互い慣れなかったし一緒に共同生活をする中で感じることも色々あったと思いますが、同い年だったこともありだんだん仲良くなりました。一緒に新大久保で食べ歩きしたり、実家に帰ったときはおみやげを買い合ったり、誕生日には手紙を送り合ったりしました。お互いに悩み相談をしたりもしました。彼女が、北海道に遊びに来てくれて、一緒に小樽の海鮮丼を食べたりガラス細工のイヤリングを買ったりしました。韓国人のようにお世話をすることが好きで留学に行くときの荷物詰めを手伝ってくれたり、眉毛の形を整えてくれたり誕生日に好きなマカロンをプレゼントしてくれたりと色々してくれました。家族のことも大切に思っていました。印象的だったのは、手紙に結婚しても子供がいても一緒に仲良くしてると思うと書いててくれてとっても嬉しかったことと、自分のことが嫌いなんだと話したときに、優しい旦那さんに会えたら変わると思うと言ってくれてとっても心が温かくなったことです。今でもお互いにラインをし合って電話をしたりと仲良く過ごしていて、とても感謝しています。共同生活をするなど、濃い体験を一緒にしたからこそ言い合えることもあり、ありのままで思ったことを正直に言うことも壁を超えるには大切なのだと言うことがわかりました。

　ピースロードという韓国で行われる南北統一のためのイベントに参加した時に、韓国人の女の子と仲良くなりました。お互い言葉は通じなくても一緒に過ごす中で心が通じて、とっても楽しい思い出になりました。もっと言葉を勉強して行きたいと思うことにも繋がりました。文化を学ぶことも壁を壊すには必要だと感じています。

　最後に、上京して精神的に大変だった時に小さい頃仲良くしていた韓国と日本のハーフのお姉さんと連絡を取り合うことになって、久しぶりにあってオムライスをご馳走してくれたり家に連れて行ってくれて話を聞いてくれました。尊敬できるお姉さんです。

　このように壁を超えるには、色々経験しながらその中で全力で相手と向き合う中で超えていけるのだと感じました。出会う一人ひとりとの縁を大事にしていきたいです。